

学習課題(中学校1年生)



【国語】

<学習内容> 「少年の日の思い出」

○教科書「少年の日の思い出（P198～210）」を読んで、場面の展開に沿って登場人物の心情の変化を捉え、登場人物の考え方や感じ方、表現の特徴について考えたことを自分に合った方法で表現してみよう。

<取り組み方>

(1) 教科書「少年の日の思い出（P198～210）」を音読しよう。

☞ 登場人物の心情の変化などに注目しながら読んでみましょう。

(2) 登場人物の心情の変化を整理しよう。

① 「僕」から見た「エーミール」の人柄を端的に表している描写を、作品の中から3つ程度抜き出そう。

② 「僕」の「エーミール」に対する気持ちを考え、心の声のような形で簡潔に表現してみよう。

☞ 例えば、「僕」は「エーミール」にコムラサキを見せたあとにどんなことを感じたのでしょうか。

③ 最後に、「僕」が「……ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。」(P210・7行目)のはなぜか考え、その時の「僕」の心情を心の声のような形で簡潔に表現してみよう。

☞ 「僕」のちょうに対しての思い、「僕」の事件への思いを踏まえて考えてみましょう。

(3) (1)～(2)に取り組む中で感じたことや考えたことについて、自分に合った方法で表現してみよう。

☞ 文章や箇条書き、図や矢印等の記号を用いたまとめなど、表現方法は様々で構いません。

☞ 自分の考えを説明する上で、大事な言葉（キーワード）や、イメージにふさわしい短い言葉や漢字などを書き出してみる方法もあります。

(4) 自分の考えたことを家の人に発表しよう。

※(1)～(4)に取り組む中で気付いたことや考えたことについて、取組シートに記録しておこう。

※(4)について、家の人に発表するのが、どうしても難しい場合は、目の前に家の人がいると想像して、声に出して発表するということでもかまいません。

<学習のヒント>

- (1) 教科書 P212 の学習の窓を読みましょう。語り手に着目し、誰の視点で描かれているかを考えながら読むことも大切です。また、今回の作品は語り手が変わる部分で、前半（現在）と後半（過去）に区切ることができます。後半については、さらにいくつか区切ることができます。「僕」の年齢や年月に注目して区切ってみましょう。
- (2) ①「非の打ちどころがない」（P203・1行目）のように、エーミールに関わる表現を探してみましょう。
- ②次の表現に着目して考えてもよいでしょう。
- ・「とにかく、あらゆる点で模範少年だった。」（P203・6行目）
 - ・「それで、僕は、二度と彼に獲物を見せなかった。」（P203・14行目）
 - ・「あの模範少年でなくて、他の友達だったら、すぐにそうする気になれたらろう。」（P208・6行目）
 - ・「その瞬間、僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかる場所だった。」（P209・14行目）
- ③「闇の中で」「一つ一つ」「粉々に」などの言葉に注目して考えてみましょう。
- (3) 読み進めていく中で感じたことや思ったことを、そのまま書いてみましょう。思いつかない場合は、次のことを参考にして、共感した点や共感できなかった点、疑問に思った点などをまとめてみましょう。
- ・「僕」のクジャクヤママユを見たいという思いからの一連の行動について
 - ・「僕」へのエーミールの対応について
 - ・現在から物語が始まったのに、過去の話で物語が終わったことについて
- ☆ 今回の物語は、前半が「私」、後半が「僕」の視点から語られていました。1年生で学習した、「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」について、語り手に着目し、誰の視点で描かれているか意識しながら、改めて読んでみるのはどうでしょうか。